

Letter to the Editor

山形大学医学部消化器・一般外科学	木村	理
朝日町立病院	桜井	文明
山形大学医学部消化器・一般外科学	平井	一郎
寒河江市立病院	布施	明

<Letter to the Editor>

愛知県がんセンター
名古屋大学大学院腫瘍外科

二村 雄次
椰野 正人

胆道に掲載されました総説論文『木村 理, 桜井文明, 平井一郎, 布施 明. 肝門部胆管癌, 胆嚢癌, 中下部胆管癌における微小リンパ節転移の臨床的意義. 胆道 2007; 21: 506—521』について, 意見を述べさせていただきます.

この総説論文は, 肝門部胆管癌, 胆嚢癌, 中下部胆管癌における微小リンパ節転移の臨床的意義について, 著者らの免疫染色による検討結果(山形医学 2003; 21: 89—110 に掲載されたもの)を概説しつつ, 文献的考察を加えたものです. 1948 年から 2006 年までの文献 63 編が引用されていますが, 残念ながら我々が行った微小リンパ節転移に関する研究¹⁾²⁾が引用されていません. 極めて多数の雑誌が存在する現在, 文献引用に関する不備はどの論文にも多少はあるかもしれません. しかし, この総説論文は“胆道癌における微小リンパ節転移”という極めて限局した領域の話で, 普通に文献検索をすれば我々の論文は必ずでてきます. Pub med で“lymph node micrometastasis, cholangiocarcinoma”で検索すると出てくる論文は文献 1 を含め僅か 2 編, “lymph node micrometastasis, gallbladder carcinoma”で検索すると出てくる論文は文献 2 を含め 6 編です. 我々の論文¹⁾²⁾は症例数も最多で, 一般外科領域では IF の最も高い一流誌に掲載されたものです. どの論文を引用するかは著者の裁量によりますが, 必ず引用されるべき重要な論文であると思います. 我々の研究に疑問があれば引用して批判すべきであり, 全く引用しないのは academic surgeon として fair ではないと考えます. 何故, 意図的に引用しなかったのか? また, そうでないのであれば如何なる方法で文献検索をしたのか? 著者らの意見を伺いたいと思います.

文 献

- 1) Tojima Y, Nagino M, Ebata T, Uesaka K, Kamiya J, Nimura Y. Immunohistochemically demonstrated lymph node micrometastasis and prognosis in patients with otherwise node-negative hilar cholangiocarcinoma. *Ann Surg* 2003; 237: 201—207
- 2) Sasaki E, Nagino M, Ebata T, Oda K, Arai T, Nishio H, Nimura Y. Immunohistochemically demonstrated lymph node micrometastasis and prognosis in patients with gallbladder carcinoma. *Ann Surg* 2006; 244: 99—105

山形大学医学部消化器・一般外科学
朝日町立病院

木村 理
桜井 文明

山形大学医学部消化器・一般外科学
寒河江市立病院

平井 一郎
布施 明

この度は誤解を生じてしまい大変申し訳ございません.

山形大から掲載させていただいた「胆道」の論文は 2001~2002 年に当教室で行った研究のリメイク版であり, 当時大腸癌の微小転移の報告はございましたが, 膵胆道系の報告はほとんどありませんでした.

「はじめに」に二村雄次先生の論文を引用させていただいております。

したがって、決して意図的に引用しなかったわけではなく、当方の不勉強のためであり他意はまったくございませんのでなにとぞ御了承ください。

今回、さらに先生方の論文を引用させていただきたいと存じます。

引用文献

Page 506, Line 22

A) Kitagawa Y, Nagino M, Kamiya J, Uesaka K, Sano T, Yamamoto H, Hayakawa N, Nimura Y. Lymph node metastasis from hilar cholangiocarcinoma: audit of 110 patients who underwent regional and paraaortic node dissection. *Ann Surg* 2001; 233: 385—392.

Page 512, Line 10 「g. 胆嚢癌対象症例と検索結果」の3行目

名古屋大学腫瘍外科学のグループは胆嚢癌の微小転移をサイトケラチンで詳細に検討し、34.3%の症例に微小転移を認めたと報告している。また pN0, pN1 胆嚢癌症例では微小転移が生存率に重要な意義を有していると報告している B)。

B) Sasaki E, Nagino M, Ebata T, Oda K, Arai T, Nishio H, Nimura Y. Immunohistochemically demonstrated lymph node micrometastasis and prognosis on patients with gallbladder carcinoma. *Ann Surg* 2006; 244: 99—105.

Page 512, Line 7

名古屋大学腫瘍外科のグループは肝門部胆管癌で954個のリンパ節をサイトケラチン免疫染色で詳細に検討している。その結果、通常の病理検索でリンパ節転移のない肝門部胆管癌では微小転移を有する症例と陰性の症例では予後に有差はなかったと報告している C)。

C) Tojima Y, Nagino M, Ebata T, Uesaka K, Kamiya J, Nimura Y. Immunohistochemically demonstrated lymph node micrometastasis and prognosis in patients with otherwise node-negative hilar cholangiocarcinoma. *Ann Surg* 2003; 237: 201—207.